

甲南病院瓦版

乳がん検診



放射線科

田中 豊彦

乳がんの罹患数は年々増加傾向で、年間9万人以上の日本人女性が新たに乳がんと診断されており、日本人女性の中で最も罹患数の多いがんです。乳がんの罹患数のピークは40代後半と60代前半で比較的若い方に多いがんといえます。早期に発見すれば、ほぼ100%近く完治させることが可能で、検診の効果がとても高い病気なので、ぜひ検診を受けましょう。

《 マンモグラフィ 》

マンモグラフィとは、乳腺の病変を見つけるため乳房を板で圧迫し、引き伸ばして撮影する検査です。腫瘍の有無や石灰化の分布などにより、乳がん診断が可能となります。当院の装置では3D画像（トモシンセシス）も撮影することが可能です。3D画像は通常のマンモグラフィ画像と比べ、乳腺に隠れていた腫瘍の発見やその広がりなどの情報を得ることができるため、精密検査が可能になり、高濃度乳腺の方や若い方にとても有用です。

《 ABUS 》

平成30年7月より滋賀県で初めての乳腺専用エコー装置（GE社製 Invenia ABUS）が導入されました。通常のエコー装置に比べ、プローブが大きく、広い範囲を見ることができます。また、乳腺エコーは乳腺の量に影響を受けないため、しこりなどの腫瘍を見つけやすい検査です。被ばくもなく、痛みが少ないことも利点であり、定期的な検査をおすすめしています。

当院では、必ず女性技師が撮影を行っています。

2021年1月12日記